

県出身者ら48人 大学奨学生面接

伊藤青少年育成奨学会

伊藤青少年育成奨学会

(田代久美子理事長)の2

023年度大学奨学生を決める面接が17日まで、多治見市十九田町のバロー文化ホールで行われている。写真。

奨学会はバローホールディングス創業者の故伊藤喜

美氏の個人資産の一部を元に設立。00年度から、大学に進学する県出身者や県内在住者、県内大学への進学者に年36万円の奨学金を給付している。

23年度は前年を8人上回る77人の応募があり、小論文などの1次選考を通過した48人が、田代理事長と選考委員による2次選考の面



接に臨んだ。面接は3日間に分けて行い、内定者を選ぶ。

奨学会によると、応募者の出身高校は県外9校を含む44校で、山県下関市の大学卒業者もいた。

このほか、大学院生を対象にした奨学制度には12人の応募があり、うち10人が書面審査で合格した。大学院進学生卒の応募は増えつつあり、特に今年はこれまで奨学生でなかった学生の応募が8人と増えた。いずれも理事会での承認を経て決定する。(箕浦由美子)